

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動,評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
1	主管会議	校長	総務・人事係	23	①本校の重要事項について適切に審議した。 ②定例会議13回、臨時会議10回(うち、3回はメール開催)開催。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。	活動内容については良好であったが、学校運営として主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制を見直す必要がある。(現在主管会議→運営会議→教員会議の順で開催されているが、主管会議で承認されたものを運営会議で再度協議することとなり、改善の余地がある。) また、次第についても、運営会議と重複する報告が含まれており、改善の余地がある。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議(協議)→主管会議(審議・承認)→教員会議(報告・周知)の流れで開催し、主管会議では本校の重要事項について審議する。 ②年間13回の定例主管会議(毎月1回※3月は2回)および、緊急を要する場合には臨時主管会議を適宜開催する。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下す。	良好である。	◎	主管会議と運営会議の開催順の改定について注目したい。
2	運営会議	校長	総務・人事係	16	定例会議13回、臨時会議3回(うち、2回はメール開催) ①本校の運営事項について協議した。 ②定例会議13回、臨時会議3回(うち、2回はメール開催)開催。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。	活動内容については良好であったが、学校運営として主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制を見直す必要がある。(現在主管会議→運営会議→教員会議の順で開催されているが、主管会議で承認されたものを運営会議で再度協議することとなり、改善の余地がある。) また、次第についても、改善の余地がある。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議(協議)→主管会議(審議・承認)→教員会議(報告・周知)の流れで開催し、運営会議では本校の運営事項について協議する。 ②年間13回の定例運営会議(毎月1回※3月は2回)および、緊急を要する場合には臨時運営会議を適宜開催する。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議する。	良好である。	◎	主管会議と運営会議の開催順の改定について注目したい。
3	スパイラルアップ会議	校長	企画・研究協力係	1	適切に審議され実施できた。	特になし 評価記号をA・C・W・Dから◎・○・△・×に変更する。 年度始めに、前年度からの改善点をふまえた活動計画を立てることとする。	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議する。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図る。	活動評価の手順を検討し、効果的な方法に改善できた。	◎	なし
4	教務会議	教務主事	教務係	38	①前年度大幅に減少した入学志願者数の回復を基本方針とし、前年度実施できなかった中学校訪問、オープンキャンパスを感染対策を踏まえた形で復活させた。 ②教務会議として、各学科の意見を反映した議題を主管・運営会議の審議・協議事項として提案した。 ③コロナ禍における効果的な授業の実施方法について、その時々の感染状況に応じて遠隔/対面の組み合わせを検討するとともに、コロナ関連欠欠(出席停止)に関する取り扱いを検討した。	適切に審議され、実施した。	①入学志願者数の回復が未達成であるため、引き続き本件を活動基本方針とし、入試広報活動の分析・改善を進める。 ②コロナ禍における効果的な授業の実施方法について、継続的に審議・提案する。	良好である。	◎	入学志願者数回復のため、継続的に志願状況を分析し、より効果的な対応策の提案を期待する。
4	-1 FD活動推進会	教務主事	教務係	2	①FD講演会を2回実施した。 ②密にならない方式での授業参観を1回実施した。	良好である。	①FD講演会を企画・実施し、FD活動を推進する。 ②授業参観を実施する。	良好である。	◎	特になし。
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	12	定常的な専攻科運営に加え、カリキュラム変更、入試方法の改善、特例適用の変更届への対応について実施した。 ①教育課程等の妥当性を専攻科会議で審議し、専門科目の必修科目4科目を選択科目に変更した。また修了要件に関して、現行の一般科目8単位以上、専門科目54単位以上の計62単位より、一般科目と専門科目の縛りをなくし、62単位以上とした。 ②入試制度の改善について専攻科会議で審議し、入試要項の一部を変更した。 ③特例審査の変更届出により、新たに指導教員10名と個表9件が適の判定を受けた。 ④新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から海外インターンシップ事業等は中止とした。 ⑤豊橋技術科学大学との「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」における初年度の修了生1名が輩出され、教育課程の妥当性を確認した。	活動状況は良好である。 改善すべき事項は特になし。	これまでの活動を継続するとともに、コロナ禍の状況を鑑みて、可能な範囲で海外インターンシップ事業(派遣、受入)、学生のインターンシップ参加、短期留学生支援について継続的に検討する。 また次年度以降に予定されている「特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査」に備え、計画的な準備に取り組む。	良好である。	◎	特になし。

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門 委員会名	委員長等	担当 課・係	①会議 開催回 数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
6	学生会議	学生主事	学生係	34	学生会議は年間34回対面方式で実施した。主に、交通安全指導・校内巡回指導・学生会行事関係・クラブ活動関係・表彰関係・奨学金関係・学生指導関係などを会議で議論した。 ①R3年度は新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じ、すべての学生会行事を実施することができた。 ・交通安全活動(春・年末計2回実施) ・ボランティア清掃活動(春・秋郊外清掃計2回、校内道路清掃1回) ・スポーツ大会(前期・後期計2回) ・高専祭 ・芸術鑑賞会(1,2年生対象 演劇) ・風紀局校内清掃活動(年間) ・献血活動(3回) ②岐阜県下の方針に従って活動を行った。各種大会で多くのクラブや学生が活躍した。 ・東海高専体育大会(全クラブ出場) ・全国高専体育大会(9種目出場、7クラブ入賞) ・全国高専コンテスト(プロコン・デザコン・英語スピーチなど出場) ・東海北陸ロボットコンテスト2チーム特別賞受賞) ・全国高校総体3種目出場 ・全国高校選手権1種目出場 ・学生の榮譽を称える校内での表彰などをすべて実施した	学生会議委員と連携する事務職員の一部が現場を把握できていなかったと思われるため、次年度は積極的に学生会の行事や学生会議関係の活動に携わることを期待したい。	・R4度は、学生会議委員と学生課長以下学生係とが連携し、学生のための委員会活動となるようにする。 ・新型コロナウイルス感染症対策を準備して、可能な限り学生関係の行事などに取り組むようにする。	活動状況は良好である。 コロナ禍で制約が多い中、前年度に実施を取りやめた各種行事について、実施形態を工夫して復活させることができた。	◎	学生会議と学生係との緊密な連携による学生支援が期待される。
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	29	寮務会議は予定通り適切に実施された。学生指導については、退寮指導を5人の学生に対して行った。寮生会活動としては、昨年度は実施できなかった寮祭などの寮生会行事を、実施方法を工夫することによって復活開催することができた。一方で、新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、寮の諸ルールや規則について、食事時間などを、1年間を通じて不断に見直し、柔軟に運用することに努めた。また、社会通念上不合理と思われる規則についてのアンケートを実施することによって、寮内規則の見直しも進めた。施設面については、G寮(国際寮)が竣工した。G寮を初め、他の寮棟の入退館システムの導入も進め、セキュリティの向上をはかった。また、顔認証デバイスを利用した独自の点呼システムを開発することによって、当直教員の業務負担を軽減した。	コロナ禍の中、寮務会議の活動は概ね良好に行われている。寮生会活動も徐々に開催されるようになり、寮生の満足度も高いものと思われる。一方、コロナの有無と関わらず、社会的価値観や技術の変化に伴う諸課題に寮が対応できているとは言いがたい。国際寮の運用開始が、社会のグローバル化への要請に応じたものであるように、寮生や教職員が社会的に求められる/求められるものに応じた各種対応が不可欠と考える。高度化・複雑化するプライバシー確保やセキュリティの見直しや、成人年齢の変更に応じたルールの改正、紙ベースの各種申請見直しや宿日直の外部委託による教職員の業務負担軽減などである。	定例の会議を、前期は毎週木曜日、後期は隔週木曜日の開講期間に開催する。安全で快適な集団生活を円滑に進める為の方策を講じるとともに、その指導方針を全寮総会や各寮総会を通じて伝達する。また、寮生会の活動に対する適切な指導監督と同時に、寮内ルールの見直しを、特に上級学年について実施する。また、寮生のセキュリティ向上と教職員の業務負担軽減の為に、入退館システムや顔認証点呼を初めとした寮内設備・施設の高度化を促進させる。	活動状況は良好である。 特にコロナ禍の影響が大きい寮において、寮祭等の行事を実施方法の工夫により復活させることができた。また、G寮(国際寮)の運用、点呼システムの開始等、新たな活動も行われている。	◎	特になし
8	将来計画委員会	教務主事	企画・研究協力係	7	(会議回数はWG会議3回を含む) ①教員評価ポイントを採用・昇任に適用し、その妥当性を検証した結果、採用に関しては修正が必要という結論になり、企業と大学等からに分けた採用ポイント表を追加した。 ②前年度改訂された三つの方針について検証した結果、3学科でAPの修正を行った。適用は令和5年度入学者選抜からとなる。 ③入試改革検討WGを設置し、データに基づく入試改革検討体制を整備し、過去の成績関連データの検討を開始した。 ④岐阜高専の若手教職員で組織されたWGにおいて、本校の将来計画や業務改善を検討した。具体的には、寮運営業務や部活動対応について、他高専や現状の詳細分析を行った。	適切に審議され、実施した。	①入試改革検討WG及びIR分析チームによる活動を推進し、過去の成績関連データに基づく入試改革を検討する。 ②今年度の検討を踏まえて具体的な提案事項をまとめて、若手視点での本校の将来計画を検討する。これを踏まえて、本校全体の将来計画において、実現可能性を検討する。	良好である。	◎	特になし。
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	6	令和3年度学内予算配分については、前年度に実施した各部署からのヒアリング及び機構からの配分額をもとに、本委員会でも十分な審議を行い、戦略的かつ公正な予算配分を決定した。 また、令和4年度予算編成方針の策定にあたっては、新校長の新たな方針を盛り込む形で新体制での予算編成方針に改訂した。 施設整備関連では、これまでの建物等改修実績や構内施設における老朽化等の現状について情報共有することにより全学的な共通認識を図り、今後の施設改修計画を審議した。 <その他主な審議事項> ・設備整備マスタープランの策定について ・校長裁量経費の審査 ・キャンパスマスタープランの作成について ・4号館・福利施設改修工事について ・令和5年度施設整備費補助金概算要求について ・学生相談室分室の設置について	適切に審議され、各事業が実施された。 次年度は、これまでの活動を継続するとともに、財務関係及び施設関係ともにより一層の情報共有・意見交換したうえでの審議が必要である。	近年、固定費の増加が著しい中、新たな予算編成方針の下、優先すべき予算を十分審議したうえで予算配分を決定する。 また、令和5年度概算要求事業(5号館改修工事)等施設整備の実施に先立ち、工事計画を十分審議する。	活動状況は良好である。	◎	財務関係及び施設関係ともにより一層の情報共有・意見交換した上での審議が期待される。
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	6	①各料アドミッション・ポリシーの妥当性を検証し、3学科でその内容を改正した。また、本科・専攻科の面接評価基準をアドミッション・ポリシーに適合するよう改正した。なお、これらの適用はR5年度入学者選抜からとなる。 ②本科入試方法の改善について、将来計画委員会にWGを設置するとともに、高専機構「IRを用いた教学マネジメント推進事業」に参加し、データに基づく入試改善の体制を整えた。また、第4学年編入学者選抜について、編入学前年度第3学年の現員40名以上の場合無条件に「募集なし」とすることを再検討し、状況に応じて募集できるよう改正した。	適切に審議され、実施した。	①改正したアドミッション・ポリシー、面接評価基準に基づく入学者選抜を実施する。 ②入試方法の改善を進める。	将来計画委員会において、IR活動と連携した検討が開始できた。今後のIR活動との効果的な連携を期待します。	◎	なし

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門 委員会名	委員長等	担当 課・係	①会議 開催回 数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
11	広報委員会	研究主事	総務・ 人事係	3+7	1) 高専だより137,138号に関しては、WGによる検討作業を進め、広報委員会による学科や各課での検討を踏まえて、発行作業を再開した。137号は3月末印刷予定、138号は6月末に印刷予定として作業を進めている。 2) コロナ禍でも対応できる体制として、延年版137号と統合版138号に関しては、WGを設置することで、集中的な作業を進めることを可能にした。	目標であった延年版137号と統合版138号に関して、予定通りの発行作業を実現した。	令和4年度は、新形式での高専だよりを検討しており、広報委員会の役割を明確にして、高専だよりだけでなく、公式ウェブの更新なども検討を進める。	活動状況は良好である。 先延ばしになっていた高専だよりについて、発行作業が実現した。 また、モレラ岐阜でのイベント等、コロナ禍で中止となっていた活動を復活させることができた。	◎	公式ウェブの更新、新形式での高専だよりの発行が期待される。
12	人事委員会	校長	総務・人 事係	16	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行った。 16回(うち、2回は持ち回り審議)開催。	特になし	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行う。	対象案件に対して、適切な審議ができた。	◎	なし
13	安全衛生委員会	校長	総務・人 事係 契約係 施設係	12	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)、環境保全(第3条)、安全衛生(第4条)に関する事項を審議した。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行った。 また、熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起・救急法講習会・ストレスチェック(外部委託)も実施した。	特になし	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)、環境保全(第3条)、安全衛生(第4条)に関する事項を審議する。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行う。	多面的な安全衛生管理について、適切な検討ができた。	◎	なし
14	点検評価・フォロー アップ委員会	委員長	企画・ 研究協 力係	3	①令和2年度受審査の大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を踏まえて、本校の外部評価「参加会」の方法を見直し、6月末に改善状況を報告(観点1-1-③)した。 ②本点検評価・フォローアップ委員会の内規である「中期計画ワーキンググループ内規」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ内規」、「学習評価フォローアップワーキンググループ内規」をより活動しやすい内規となるよう見直した結果、内規の規定の範囲内で、年度初めの第1回委員会の審議事項において下記のように、WG長、副WG長を決めたことで活動を促進できた。 【中期計画WG】 WG長:委員長, 副WG長:1名 【自己点検・評価実施WG】 WG長:委員長以外教授, 副WG長:2名 【学習評価フォローアップWG】 WG長:委員長以外教授, 副WG長:2名	特になし	①令和2年度受審査の大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を踏まえて、本校の外部評価「参加会」の方法を見直し、6月末に改善状況を報告(観点1-1-③)する。R04年度は「外部評価報告書(仮称)」を添付で報告する。 ②令和4年度は、R03年度に本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画ワーキンググループ」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」、「学習評価フォローアップワーキンググループ」が活動しやすいようにWG長、副WG長を置いて活動を促進できたため、これを継続する。	3つのワーキンググループで活動を促進された具体的な活動内容が分かりにくい	○	各ワーキンググループで活動を促進された具体的な活動内容が分かるとうい
14	-1 中期計画WG	委員長	企画・ 研究協 力係	2	①令和2年度の年度計画達成状況(高専機構本部の書式)の点検を実施し、提出する書式を統一した。さらに、その状況や課題に応じた令和3年度の年度計画を確認した。 ②本校の年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドラインを再検討し、下記の点を踏まえて評価することに統一した。 1)『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。(アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一) 2)『年度計画』と『実施状況』の記載項目が対応しているか。 3)『年度計画』が定量的である場合には、『実施状況』も定量的に表現できているか。 4)『問題点等』の列に、『○』、『△』、あるいは『×』の記載はあるか。	特になし	①令和3年度の年度計画達成状況(高専機構本部の書式)の点検を実施し、その状況や課題に応じた令和4年度の年度計画を確認する。 ②令和3年度に本校の年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドラインを再検討し、下記のとおり評価することに統一したため、2年目となる令和4年度においても記述方法を詳細に点検する。 1)『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。(アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一) 2)『年度計画』と『実施状況』の記載項目が対応しているか。 3)『年度計画』が定量的である場合には、『実施状況』も定量的に表現できているか。 4)『問題点等』の列に、『○』、『△』、あるいは『×』の記載はあるか。	良好である。	◎	
14	-2 自己点検・評 価実施WG	委員長	企画・ 研究協 力係	2	①令和2年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検評価結果をWebに公開した。 ②本校の外部評価組織である参加会の在り方を検討し、するとともに、昨年度未実施であった令和元年度及び令和2年度の2年間分の外部評価を令和3年9月9日にリモート(岐阜県に新型コロナウイルス感染対策緊急事態宣言中)で実施した。 ③令和3年度の学習評価フォローアップ点検 授業アンケート、教育目標に関する最低ラインの数値設定を再検討し、下記のように数値を設定した。 授業アンケート ・満足度(授業アンケート 問4)3.4以下 →3.5未満(「良」)の最低評価7)を下回ったものは不良と判断 ・達成度(授業アンケート 問3)3.3以下 →3.5未満(「良」)の最低評価7)を下回ったものは不良と判断 教育目標関係 ・準学士課程(本科卒業時) 3未満(60%未満)→3.5未満(70%以下)を下回ったものは不良と判断 ・専攻科課程(専攻科終了時)3未満(60%未満)→3.5未満(70%以下)を下回ったものは不良と判断	特になし	①令和3年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検評価結果をWebに公開する。 ②令和3年度に本校の外部評価組織である参加会の在り方を検討し、外部評価「参加会」の方法を見直して、参加会を9月に実施し、令和元年度及び令和2年度の2年間分評価を受け、現在「外部評価報告書(仮称)」を作成中である(6月完成予定)。令和4年度は、外部評価「参加会」の方法を見直し2年目となるため、令和3年度分の外部評価を9月に実施する。 ③令和3年度に学習評価フォローアップ点検 授業アンケート、教育目標に関する最低ラインの数値設定を全て3.5に決定したため、2年目となる令和4年度においても詳細に点検する。	良好である。	◎	

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門 委員会名	委員長等	担当 課・係	①会議 開催回 数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
14	-3 学習評価フォ ローアップWG	委員長	企画・ 研究協 力係	3	①学習評価フォローアップWGにおいて、Moodleによる授業アンケートの検討を行った結果、前年度に反対もあったことから、Moodleによる授業アンケートについては保留とし、電子化は進める方向と結論づけた。	授業アンケートの電子化の検討	電子アンケート入力(ExcelやFormsあるいは業者提案の方法)を業者と検討する。その中で良いと思われる方法をR05年度から運用開始する。R04年度前半はまだコロナウイルス感染症が続くことが予想されるため、集計作業は従来通り業者委託とする。R04年度初めに業者と議論・打合せをし、電子化の伴う費用等の算出をすることとする。	授業アンケートの電子化を望む	○	
15	国際交流室会議	室長(羽 測)	教務係	2	■エンパワーメントプログラムを3月実施した。30名の学生が参加し、ファシリテーターの講義、英語でのコミュニケーション活動、グループディスカッション、英語でのプレゼンテーションなどを行った。 ■シアトル未来理工系人材育成プログラム(リモート)の企画・運営を9月に行なった。本プログラムには9名の学生が参加した。Wakako Shibata氏、Akifusa Nakazawa氏のキャリアセッション、ファンリテーターによるグループディスカッション、自分の将来についての英語プレゼンテーションを行った。 ■放課後英会話レッスンはG寮のラーニングセンターで行いG寮の活用を図った。のべ94名の学生の参加があった。 ■第1学年、第2学年の学年集会以て留学セミナーはカナダに留学している1Y学生をオンラインでつないで行い、グローバル担当の小川氏の留学体験の講演も行った。 ■協定校HAU,IUT,ITBのMoUの更新を行った。	・短期留学が行えなかった。JASSOは派遣が可能になっているので、コロナ感染の様子を見ながら再開を検討する。 ・本校の留学生が英会話レッスンに参加しているが、ボランティアであった。TAとして謝礼を支払えるようにし、レッスンのサポート体制を確立させる。	①トビタテ留学JAPANは短期留学などの学生の支援を行う ②グローバル教育に関する事業を教務と分担しながら実施する。具体的に、シアトル未来理工系人材育成プログラム、エンパワーメントプログラムは、前年度の実施状況を見て内容の変更を検討する。放課後英会話は好評であり、充実させる。 ③協定校との連携、短期留学生受け入れの計画・検討を行う	活動状況は良好である。コロナ禍で留学(派遣、受入)が難しいなか、エンパワーメントプログラム、シアトル未来理工系人材育成プログラム(リモート)、放課後英会話レッスンなどが実施され定着しつつある。	◎	
16	人権委員会	事務部長	総務・人 事係	2	①現在進行中のハラスメントに関する案件について人権委員会として適切な対応を行った。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努めた。	特に無し	①ハラスメントに関する案件が発生した場合、人権委員会として適切な対応を行い、必要に応じて第三者の導入を検討する。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発及び研修の企画・実施を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努める。	活動状況は良好である。	◎	
17	情報セキュリティ管 理委員会	情報処理 センター 長	図書・ 情報係	0	1) 主管会議、運営会議などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況の把握および、情報セキュリティインシデントへの対応が適切に実施されていることを確認した。 2) 要機密情報の取扱及び格付け規程について審議した。規程は7/28に施行された。	適切に実施されている。	1) 情報セキュリティ推進委員会の活動状況について把握する。	単独での会議開催はないもの実質的には主管および運営会議により審議、周知等が行われている。	◎	
18	情報セキュリティ推 進委員会	情報処理 センター 長	図書・ 情報係	6	1) 5/27に教職員向け情報セキュリティ研修を実施した。 2) 情報の格付け(案)を検討した。 3) 1月にIT資産管理調査を実施した。 4-1) 12/16に4E(U)学生を対象として警察庁によるサイバーセキュリティ演習を実施した。 4-2) サイバーセキュリティ人材育成事業教員等育成プロジェクトに参加し、セキュリティ技術のスキルアップを図るとともに、新たなセキュリティ演習教材について検討した。 5) メールへのファイル添付の代替手段として、NII FileSenderによるファイル転送の運用を決定した。 6) 今年度に情報セキュリティ監査を受けた。緊急性の高い指摘事項および助言・アドバイスについて対応した。	活動は良好である。	1) 教職員向け情報セキュリティ研修を実施する。 2) IT資産管理を調査するとともに、情報システム管理台帳を作成する。 3) 令和3年度情報セキュリティ監査の指摘事項および助言・アドバイスへの対応について検討する。	活動状況は良好である。	◎	
19	テクノセンター運営 委員会	テクノセ ンター 長	企画・ 研究協 力係	9	■テクノセンター全般 ・本年度は、科学研究費保有課題代表者26件、共同研究14件、受託研究2件・受託事業2件、寄附金20件、助成金16件、技術相談48件であった。 ・地域共同利用研究室を2名の教員に利用していただいた。 ・新型コロナウイルス拡大のため遠隔でテクノシンポジウムを開催した。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協力会会報などをウェブ上で公開した。 ・機構主催の科研費等外部資金獲得のための講演会は行われなかったため、日本学術振興会のホームページにより変更点などを確認してもらった。 ・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜、岐阜大学地域交流協会、中部イノベネットと連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 ・リテラシー活動はできたが、インターンシップは新型コロナウイルスの影響でほとんどできなかった。	活動状況は良好である。 テクノセンターとして外部資金(ジュニアドクターなど)に申請する。	■テクノセンター全般 ・地域連携協力会、本校産学官連携コーディネータを通じて産学官連携を推進する。 ・テクノシンポジウムの開催。 ・テクノセンターとして外部資金への申請。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協力会会報などをウェブ上で公開して情報発信する。 ・岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進する。 ■技術教育部門 ・リテラシー活動、インターンシップ事業等を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を推進する。	活動は良好である。	◎	
19	-1 科学技術リテ ラシー教育推 進室	室長(飯田)	技術室	2	全学科からリテラシー教育のテーマが提案され、募集テーマ数は10であった。受講者数は本科98名、専攻科10名となった。しかしながらコロナ禍の影響で学外での活動を行うことが困難となり(活動を予定していた岐阜サイエンスフェスティバル、新規のモレラ岐阜でのイベントが中止)、実施できたテーマは6テーマであった。今年度は本科生41名、専攻科生3名に単位認定した。 ・5/6に学生へ募集案内を配布した。 ・1/12に活動報告会を行い、テーマごとに発表を行った。	活動は良好である。 全学科からテーマを提案できたことから、全学科の学生から参加希望があり、全学的に活動が広がっていることが確認できた。また募集をかけた当初の応募数は過去最高となったことから、学生のリテラシー教育への興味の向上も見受けられる。 コロナ禍において学外での活動が不安定であることから、岐阜サイエンスフェスティバルのような大規模なイベントではなく、中止・延期になりにくい小規模イベントへの参加も推奨していく。	令和4年度もコロナ禍の影響により、急に学外活動が中止や延期となる可能性が考えられる。 リテラシー教育推進室でも、地域の児童館やモレラ岐阜などの近隣施設と連携して、小規模のイベントを開催し、学外活動の機会を増やすことができるよう努めていく。	活動は良好である。	◎	学生の学外活動の機会が増えることが期待される。

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門 委員会名	委員長等	担当 課・係	①会議 開催回 数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
19	-2 若鮎連携推進室	研究主事	企画・研究協力係	3	・若鮎会の活動の中で、今年度は中核人材育成の状況を分析式、予算的な問題を検討するとともに、学内との連携の方法について行事担当者との意見交換を行った。 ・高専祭においては外部来客が制限されたため、今年度は実施できなかった。	中核人材育成の今後の改革方針を検討し、本校との連携の強化を実現できた。	若鮎会との連携において、中核人材育成以外の、幅広い連携の展開を検討する。 高専祭において、卒業生との親睦会を、コロナ禍であっても実現できる手段を検討する。	活動は良好である。	◎	若鮎会との幅広い連携が期待される。
19	-3 知的財産委員会	テクノセンター長	企画・研究協力係	3		出願特許の拒絶査定への対応、特許を受ける権利に関する今後の対応、特許権の権利消滅等について、適切に対処した。	活動は良好である。	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について適宜対処する。	◎	
19	-4 機器分析室運営委員会	委員長(羽瀧)	企画・研究協力係	1	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。 ・4号館改修に伴い、新しい部屋の仕様、導入機器を検討した。 ■(利用に関する事項) ・利用状況は前期11時間、後期90時間となった(集計はR02年度)	来年度の改修にともない、改修中の機器分析室の利用について検討する必要がある。	①機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理する。 ②申し込みがあった場合は、利用講習会を実施する。 ③会議を1回実施し、年度計画、役割分担などを確認決定する。 ④改修に伴う、改修中の仮運用を行い、あたらしい部屋の仕様を決め、R04から稼働させる。	活動は良好である。	◎	
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	6	■図書館部門 1) コロナ禍の収束に対応して、図書館利用を徐々に可能な範囲で再開できた。 2) 紀要は教員への広報活動により、発行の継続が実現できた。 ■情報処理センター部門 1) 第1学年情報処理センターガイダンスにおいて、本校での学習に必要なスキルを研修を行った。 2) 無線アクセスポイントについて、設置場所・管理者などを調査して、管理体制を明確にできた。 3) 高専機構テナントAzure経費のさらなる削減のため、Moodleの利用時間の制限を行った。	当初の活動計画に対応して、実施できた。	■図書館部門 1) コロナ禍の収束を見越して、積極的な活用を実現するための、広報活動を行う。 2) 紀要は投稿数の増加に向けて、位置付けなどを再検討し、安定的な継続を目指す。 ■情報処理センター部門 1) コロナ禍の収束があっても、遠隔授業や情報リテラシーのスキルについては、教育を継続する。 2) 教員室・研究室等で設置されているPC等について、網羅的な管理体制を構築する。	「高専機構テナントAzure経費のさらなる削減のため、Moodleの利用時間の制限を行った。」これが適切な判断であったのか、費用対効果(いくら節減になり、学生や教員にどれほどの制約が加わったのか)の検証が必要であると思われる。	○	「高専機構テナントAzure経費のさらなる削減のため、Moodleの利用時間の制限を行った。」これが適切な判断であったのか、費用対効果(いくら節減になり、学生や教員にどれほどの制約が加わったのか)の検証を行う。
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	6	1) 次期高専統一ネットワークのネットワークスイッチの台数および無線アクセスポイントの設置位置について検討した。 2) BYOD端末のための端末管理システムについて検討した。	活動は良好である。	1) 令和5年度運用開始予定(令和4年度中に更新)の次期高専統一ネットワークの更新に向けて、詳細設定を決定する。	良好	○	なし
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	3	本WGの過去からの実績を洗い出し、その役割を再確認した。	本WGの実績と役割を再確認し、最終的に本年度限りでWGを廃止することとした。	なし	適切な判断	◎	なし
21	学生相談室会議	室長(櫻木)	学生係	11	○ ①対面、遠隔会議を併用し月1回会議を開催した。 ○ ②前期と後期に高専生活アンケートを実施し把握した。 ○ ③Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を実施した。 ○ ④1・2年生を対象に、特活時間を利用して5月(2年生)、7月(1年生)にメンタルヘルス、11月(2年生)、12月(1年生)にコミュニケーションに関する講演会を実施した。 ○ ⑤SSWの導入のため、岐阜県社会福祉士会に相談し、紹介を受けた。必要に応じて意見をもらっている。 × ⑥教職員向け学生支援に関するFD活動を行う。	会議開催も含めて積極的に活動し、体制整備に努めた。相談室は、様々な問題を抱える学生に接するため、対応する範囲が限界がない。今年度は、いじめ、合理的配慮と相談業務以外の対応を担当し、当初の目標に比べはるかに多く業務を実施した。 上位法令等により、合理的配慮、いじめ対策は、組織としての対応をすることに変更になっており、現在の学生相談室規程は、組織としての対応とは言えない部分がある。昨年度、進めてきた対応方法を基本として、現行の学生相談室規程を学校の組織としての対応に合わせた形に変更する必要がある。 教職員向けの学生支援に関するFD活動について、いじめに対する教職員研修は実施した。学生支援に対する内容については実施できなかった。その理由として、学生相談で課題となる内容が多岐にわたるため、題材の適切性や、本校の取り組みに資する内容を模索したものの、絞り込むことができなかった。研修の意義を高めるためには、機構の計画にある通り、具体的事例に即した内容とすることが必要で、多くの教職員が現実と直面している題材をテーマとしたい。実際に学生支援の取り組みを進めているため、進めていく中でFD活動のテーマを見出したい。	①月1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行う。 ②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を行う。 ③遠隔授業中の学生やその家族メンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を行う。 ④1・2年生を対象に、特活時間を利用してメンタルヘルス、コミュニケーションに関する講演会を実施する。 ⑤業務体制に合わせた関連規程の改正を検討する。 ⑥研修等により、引き続き学生支援の質の向上を図る。	おそらくコロナの影響もあり、様々な問題を抱える学生も増えており、業務が多岐に渡ることが予想されるが、学生相談室員・担任等教員・カウンセラー等がチームを組み、1教員が過度な負担を抱えることない工夫が必要である。	○	上位法令等により、合理的配慮、いじめ対策は、組織としての対応をすることに変更になっていることから、早急に、学生相談室規程等を変更する必要がある。
22	教員会議	校長	総務・人事係	7	・定例会議7回開催 ①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図る。 ②教員の負担軽減、感染症対策の観点から、teamsによるオンラインでの実施を検討する。	活動内容については良好であったが、学校運営として主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制を見直す必要がある。(現在主管会議→運営会議→教員会議の順で開催されているが、主管会議で承認されたものを運営会議で再度協議することになっており、改善の余地がある。)また、次第についても、改善の余地がある。 対面開催の際の、コロナ対策・部屋の確保についても要検討である。	①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図る。 ②年間7回の定例主管会議を開催する。 ③当日対面で出席できない教員や、新型コロナウイルス対策にも配慮し、対面とオンラインのハイブリット開催を充実させる。	コロナ禍によりやむを得ない事態であるが、現状のオンライン会議では発言者の発声がスピーカー経由で配信されていると思われ、オンライン参加者には聞き取りにくいケースが多い。	○	オンライン開催の際、音声配信の改善を期待したい。

令和3年度会議・委員会・部門委員会の活動評価等

⑤評価：◎良好である、○概ね良好である、△懸念がある、×欠陥がある

番号	会議・委員会・部門 委員会名	委員長等	担当 課・係	①会議 開催回 数 R3	②今年度の活動内容 R3	③自己点検及び改善すべき事項 R3	④改善事項を踏まえたR4活動計画	④評価概要 R3	⑤評価 R3	⑥改善事項 R3
23	学級担任会議	教務主事	教務係	4	①全体会議4回＋研修旅行会議(3, 4, 5年)を開催した。実施可能な時期は極力対面会議とし、学級担任の連携を図った。 ②授業実施形態等に関する連絡事項は頻繁に発生したため、教職員及び全学生に対して教務主事から随時メール、LMSでの連絡を行った。 ③学生個人の履歴や到達度に着目した「e-ポートフォリオ」について、他高専の状況を調査した。	活動は良好である。 進路変更、合理的配慮等学生毎の案件については、学級担任会議とは別に個別対応している。	① 4回の全体会議と研修旅行等関連の会議を開催し、学級担任間の連携を図る。 ② R4年度も感染状況の変化が発生する可能性が高いため、引き続き随時教職員、学生への連絡体制を維持する。 ③「e-ポートフォリオ」について、本校への具体的な導入方法を検討する。	良好である。	◎	なし。
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	3	・定例である年間3回のクラブ顧問連絡会議を全て実施した。 ①・R3年度は、各種高体連大会・高文連大会・高野連大会・東海地区国立高専体育大会・全国高専体育大会・高専関係の各種コンテストへの参加ができた。 ・クラブ活動の実施について、岐阜県の方針に従い可能な限り実施することができた。	・クラブ顧問連絡会議は可能な限り対面で実施する。	全てのクラブと同好会の活動や大会等への参加などが、可能な限り実施できるように検討していく。	活動状況は良好である。	◎	
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・人事係	1	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営(表彰・助成金の助成)を行い、学生の課外活動や学会発表参加の促進を図った。	特に無し	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営(表彰・助成金の助成)を行い、学生の課外活動や学会発表参加の促進を図る。	良好である。	◎	特になし。
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	0	R3年度は該当学生がいなかったため、特別支援検討委員会の開催はしていない。学生支援体制の強化についての小会議などは複数回実施した。 ①学生支援体制の強化を以下のように行った。 ・R3年度は、10月27日に特別支援検討委員会の規則を改正し、支援を要する内容に応じ、教務主事または学生主事を委員長とするようにした。 ・本校にいじめ対策委員会に、いじめ専門家である橋本治氏を委員に委嘱した(R4年度からは特命教授(スーパーバイザー))。 ・本校にヤングケアラー問題などへの対応のため、徳広圭子(スクールソーシャルワーカー)を委員に委嘱した。 ・R4年度は、学生相談室体制の強化のため、保健師の採用を決定した。 ・R4年度に向け、スクール弁護士の依頼を検討している。 ・R3年度、第5学年となる聴力障害を有する学生については、これまで何ら問題なく学校生活を送ることができており、年度初めには改めて委員会を開催する必要はないという確認を担任と本人に行った。そのため、これまでと同様の配慮事項を4月当初に関係教科担当教員へ引き継ぐ連絡を行った。	学生支援体制の更なる学内強化を検討する。	配慮を要する学生の申請に応じ、必要な場合は速やかに特別支援検討委員会の開催を行う。	良好である。	◎	特になし。
27	男女共同参画推進室	室長(鶴田)	総務・人事係	メール審議 5件	○2019年度に共同参画推進室から提案した「女子トイレ増設および更衣室(男女)設置に関する生活関連施設改善要望」に基づき設置された1号館1階女子トイレの共用が開始された。 ○2020年度第3ブロック会議で本校から提案していた入学願書の性別記載の撤廃が本年度入試より本校および多数の高専で実現した。 ○新設された在宅勤務制度について、育児経験のある女性教員へのヒアリングを行うとともに、共同参画室のメール審議を経て、育児休業制度と矛盾しない改善案を作成して、第3ブロック会議で提示した。	○2019年度に女子学生の利用するトイレおよび更衣室に関する女子学生対象のアンケート調査および女性教員の現地視察・意見聴取に基づき作成し、財務施設委員会に提出した「女子トイレ増設および更衣室(男女)設置に関する生活関連施設改善要望」に基づき、今後予定されている校舎等改修計画においても、継続してダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善にも活かされるよう体制を整えるとともに、関係者への情報共有を徹底する必要がある。 ○本年度の教員公募において記載があった女性優遇の記述について、女性教員が差別を受けると感じていることから、撤廃を含めて継続して検討する必要がある。	①ダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善に活かされるよう体制を整えるとともに、関係者への情報共有を徹底する。 ②教員公募において記載があった女性優遇の記述について、継続して検討する。	良好である。	◎	特になし。
28	リスク管理室会議	校長	総務・人事係	18	①学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じた。 特に、今年度においては新型コロナウイルスに関し、迅速な措置を講じ、感染拡大リスクを抑えるよう努めた。 また、新型コロナウイルス感染症に係る対応フローチャートおよび活動方針レベル対応表を策定し、教職員・学生が統一認識を持ち対応をする一助となった。	特に無し	①学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態や、本校の社会的信頼を損なう事態、施設管理上の重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じる。 特に、本年度においては新型コロナウイルスに関し上記の事態の発生が想定されるため、迅速な措置を講じ、感染拡大リスクを最大限に抑える。	良好である。	◎	特になし。